

近代建築の遺産を訪ねて “築港ならではの歴史・文化・建造物を訪ねる”

築港は、港として栄え、桜の名所であった時代を経て、一大軍事基地へと進化。戦後は、客船・海遊館などのレジャー施設が整備されました。これらの築港の名所を大阪ウォーク・トークのガイドのご案内で探訪しました。

開催日:2026 年 10 月 7 日(水)

集合場所:大阪メトロ中央線「大阪港駅」

集合時間:10 時 00 分

天保山

江戸時代の天保山



天保山は、築港島に桜並木がある名所であった。幕末黒船到来後、天保山を削り台場を建築。日本一低い山となった。明治後期から大正期にかけて、軍事用倉庫が整備され一大出征基地として機能した。その為、第二次世界大戦で大空襲に見舞われるが、現在は、客船が寄港する大阪港として整備され、海遊館などの娯楽施設がある観光地として賑わう町となっている。

江戸期の天保山風景



天保山



現在の天保山風景



渡船場・港住吉神社・赤レンガ倉庫・築港高野山

築港周辺には、今も大阪市が運用する無料の渡船があり、市民の足として活用されている。

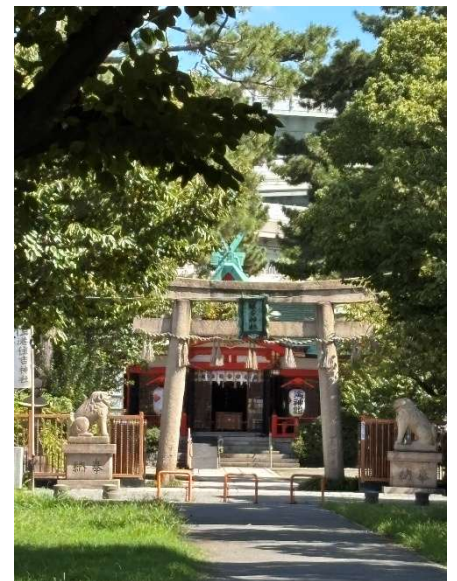
江戸時代に航海の神様である住吉さんを祀る港住吉大社。明治時代に遣唐使出航の旧跡がある場所に築港高野山が祀られるなど、築港ならではの海運にまつわる神社もある。

赤レンガ倉庫は、戦前(第二次世界大戦)までの一大出征基地の保管庫。陸上輸送用に大阪築港線が倉庫まで敷設されていたとの事。今の大阪メトロ中央線である。建築様式は明治から昭和初期の典型的な煉瓦造倉庫様式を踏襲しており、横浜・小樽などでも見られる港湾建築様式である。

渡船場(築港⇄桜島)



港住吉大社



赤レンガ倉庫



築港高野山



築港は、古くは遣唐使の出航地であり、その後、江戸時代に桜の名所として賑わい、幕末から第二次世界大戦まで、軍事基地として活用されました。その為、大空襲に見舞われたものの、戦後は、客船・海遊館など港を生かしたレジャー施設として整備され、再生されてきたことが大阪ウォーク・トークのガイドの解説によりわかりました。歴史的な背景を理解しながら、築港の発展の足跡を辿ることができ、単なる観光では得られない学びのある探訪となりました。